

式 辞

「山眠る」冬、厳しい寒さに耐え、芳しい梅の香りが漂ってくる本校の敷地では、しばらくすると鮮やかな朱色が生える山茶花が花を咲かせ、そこかしこに生命の息吹が感じられる季節が巡ってきます。飯野山が微笑んでいるかのような「山笑ふ」春、香川県教育委員会教育委員 木下敬三様、香川県議会議員 川池秀文様、PTA会長 松木健一様のご臨席を賜り、令和五年度香川県立飯山高等学校卒業証書並びに修了証書授与式を挙行できますことは、卒業生・修了生はもとより、教職員にとりまして大きな喜びであります。心より厚くお礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました総合学科一二〇名、看護科三二名の皆さん、そして、専攻科看護科の課程を終え、修了証書を授与いたしました二八名の皆さんおめでとうございます。今日に至るまでの皆さん一人ひとりの努力に、改めて拍手を送ります。

皆さんは飯山高校の一員として、初めて校地に足を踏み入れた時の気持ちを覚えていますか？また、専攻科へ進んだ時の決意を今も抱き続けていますか？時は絶えず流れ続け、立ち止まってはくれません。それでも、人はその時々を思いを大切に積み重ね、それぞれの道を歩んで行くのだと思います。そして、節目節目で出合った「こと」は皆さんに大きな影響を与えることになります。新型コロナウイルス感染症。五類に移行され、徐々に以前の状態に戻りつつありますが、皆さんの生活は大きな変化を余儀なくされました。困難な状況の中で、自分に今できることに真摯に向き合ってきた皆さんには新たな気づきがあったのではないのでしょうか。さらに、年明けに発生した能登半島地震。水が出ること、道がどこまでも続いていること、そして家族がそこにいること。災害は、こうした当たり前であることに、私たちがどれほど深く感謝しなければならぬかを教えてくれました。時の流れに伴い、高齢化は進み、情報技術の進歩により、処理すべき大量の情報にさらされながら、先行きを見通せない。明日、

何が起こるか予測することすら困難な現実社会。―これから自分は「いかに生きるか」

― 期待、不安など様々な思いに揺れる心のうちを、明るく照らし、導いてくれる灯は、皆さんが飯山高校で過ごしてきた時間、歩んできた道、足跡であると私は信じています。未知の課題に立ち向かい、試行錯誤を繰り返しながらも歩み続けて行く皆さんに期待することを二つ述べ、飯山高校を旅立つ日の饞の言葉とします。

一つ目は「歩み続ける」ということです。皆さんの行く手には、様々な困難が待ち受けています。そこから逃げ出せば、目の前の困難からは逃れられるかもしれませんが、しかし、その困難は「壁」のまま立ちはだかり、その状況から得るものは何もありません。そして、また新たな「壁」が行く手を塞ぐだけです。諦めず、一歩前に踏み出すことで、「壁」に見えたものは、自分の成長へと繋がる「階段」に変わるものです。目の前の「現実」から目をそらさず、諦めず、歩み続ける人であって欲しいと思います。

二つ目は「認める」ということです。皆さんは自分自身を認めることができていますか？自分の弱い部分も含めて自分を「認める」ことは意外に難しいものです。まして、他者を「認める」ことはなおさらです。皆さんはこれまで多くの人たちと出会ってきました。意気投合し、喜びや楽しさを何倍にも大きくしてくれた「出会い」、不安に苛まれ、どうすればいいのか分からない時にそっと寄り添い、背中を押してくれた「出会い」。それぞれの「出会い」は一生の宝物になるものです。しかし、「出会い」を、そして、その相手を「認める」ことができなければ、大切な瞬間も何も感じられないまま自分の前を素通りしてしまうことになります。相手の存在を、そして、自身を「認める」ことができて初めて大切な「出会い」が成立するのだと私は考えます。諦めずに「歩み続ける」道の岐路で「認める」という思いが、大切な「出会い」を生み、心と心を繋いで行きます。そのような生き方こそが、現代の多様性に満ちたグローバルな社会、そして、AI・人工知能に象徴される技術革新の時代を生き抜くためには欠かせないものとなるはずです。

私たちは、日々、周囲の人々から受け取った、さりげない言葉や考え方、また、時々
の思いや経験などを心の内に積み重ね、新しい自分というものをつくっていきます。
「歩み続ける」、「認める」という二つの言葉を胸に刻み、自分の未来を切り開いて行
ってください。誰もあなたがたに未来を届けることはできません。なぜなら、あなた
方が未来だから。

終わりに、思春期の心身ともに大きく変化する時期を、時に愛情深く、時に厳しく
諭し支えてこられました保護者の皆様には、改めて、心よりお祝い申し上げます。お
めでとうございます。そして、これまで本校の教育活動にご理解とご協力を賜りまし
たことに、心よりお礼を申し上げます。

私たち教職員一同、「生徒の限らない可能性を信じ、一人ひとりの輝きが地域を照
らす」、そういう学校づくりをめざして取り組んで参りました。今後とも地域に信頼
され、卒業生、修了生が誇りに思い続けられる学校であるよう、一層の努力を重ねて
参ります。本日、ご臨席を賜りました全ての方々には、引き続き、本校への変わらぬ
ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

さあ、卒業生、修了生の皆さん！百七十九の飛行機は今、名残惜しくも最終案内が
告げられ、滑走路のスタート位置に向け、動き始めたところです。新たな人生の、新
たな世界へ向けた旅が、今、始まろうとしています。それぞれの夢を乗せた旅の先に
幸多からんことを心より祈念し、この晴れやかな旅立ちの日の式辞といたします。

飯山高校で皆さんと共有してきた「時」と「風景」は、私にとっての宝物となってい
ます。

ありがとうございました。

令和六年三月一日

